

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 1 日現在

機関番号：13601

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2010～2012

課題番号：22652023

研究課題名（和文）アジアにおける怪異小説の伝統と創造—怪異小説としての『剪灯新話』—

研究課題名（英文）The Tradition and creativity of Grotesque's Tales In East Asia

研究代表者

閻 小妹 (YAN XIAOMEI)

信州大学・全学教育機構・教授

研究者番号：70213585

研究成果の概要（和文）：中国の東南大学、杭州工商大学、西北大学などで長年蓄積されてきた日本の『剪灯新話』に関する研究成果の紹介、論文発表をし、アジアに特に漢字文化圏における『剪灯新話』の受容、翻案、発展の視点から、日本の「怪談の論理」の応用、導入について中国、台湾研究者と意見交換、議論を行った。日中双方の『剪灯新話』研究に関係する基礎研究文献資料集の日本語版と中国語版の作成を進めている。

研究成果の概要（英文）：This study Introduced and present thesis regarding "JiandengXinhua" that has been accumulated for long in Dongnan University, HuangzhouGongshang University, and Xibei University, China. As a results, We Had opinion exchanges and discussion with Chinese and Taiwanese scholars regarding application and importation of Japan's "Ghost story logics" from the perspective of acceptance, adaptation, and development in "JiandengXinhua" in East Asia, especially among Chinese letter culture area. Currently I am working on editing Japanese and Chinese version of basic study documents collection in relation to "JiandengXinhua" study of both Japan and China.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	500,000	0	500,000
2011年度	400,000	120,000	520,000
2012年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	1,400,000	270,000	1,670,000

研究分野：文学

科研費の分科・細目：日本文学、中国文学

キーワード：中国文言小説、怪異小説、剪灯新話の対偶構成、アジアの怪異小説、翻案小説、江戸の怪談、寓言論

1. 研究開始当初の背景

中国では『剪灯新話』に関する研究は長い間、空白状態が続いていた。2006年11月にはじめて専門の研究書『明代剪灯系列小説研究』

(喬光輝氏著)が出され、作者瞿佑の伝記については地方誌から新しい発見があったものの、残念なことに長年蓄積されてきた『剪灯新話』の日本側の研究成果をほとんど取り

入れてなかった。また、近年日本の中国文学の分野においても『剪灯新話』の研究論文は単発的で、『剪灯新話』の怪異小説としての中国文学史上の位置づけがなされていない。

2. 研究の目的

本研究は、日本文学の研究成果、怪異小説成立に関する理論や方法を、逆に中国の怪異小説研究に応用し、役に立てようと考えている。つまり、日本の怪異小説研究の新しい理論で中国の新資料を生かして、斬新かつ多様な視点から『剪灯新話』の中国文学史的位置付けを、とくに明代初期の怪異小説成立と関わらせる形で行おうとするものである。その結果、『剪灯新話』における寓言論がいかに展開され、確立されたかが明らかになり、従来の中国文学史上の怪異小説というジャンルの意味を考え直す視点を提供することができるし、さらに日本近世怪異小説の「寓言論」の深化にも寄与することになるだろうと思う。

(1) 日本近世小説史の研究において、山口剛氏、高田衛氏、太刀川清氏などは一貫して「怪談の論理」として「怪異」の学術的な意味を追求してこられた。この中で『剪灯新話』も主に撰取の視点から怪異譚の典拠として扱われている。そのうちの個別作品、例えば「牡丹灯記」、「愛卿伝」などがよく論じられていたが、しかし文学作品としての全体像についての議論は十分になされてこなかった感がする。

(2) 今まで近世怪異小説の方法論で『剪灯新話』を読み返し、作品全体の構成、構想について考えてきた。その結果、全4巻20篇に女性を中心としたものは巻ごとに双子のように2編ずつ配置されたことが判明した。

(拙論①『「剪灯新話」の構造について』中国古典小説研究会研究発表 2008年9月、②「愛卿伝と翠翠伝を読む—『剪灯新話』の構

成—』『日本文学』2007年10月号、③「剪灯新話を読む」『日本近世部会報』2006年1号、④『「剪灯新話」の神婚譚と冥婚譚—「滕穆醉遊聚景園と「牡丹燈記」—』『日本近世部会報』2008年3号)。また、東アジアに特に漢字文化圏における『剪灯新話』の受容、翻案、発展の視点から、ベトナムの『伝奇萬録』を研究する現状についての論評や中国における漢文小説の新しい研究動向に対する批評も行ってきた(拙論「剪灯新話と伝奇萬録」、『日本近世部会報』2007年2号、「東アジアの視点から展開される「漢文小説」研究」『日本文学』2009年7月号)。

(3) 近年飯倉洋一氏の研究(2004年度～2006年度基盤研究(C)『「奇談」書を手がかりとする近世中期上方仮名読物史の構築』)によって、近世奇談の系譜に知的議論・世相批判・歴史評論などの導入が顕著な傾向がありと指摘され、いわゆる「寓言論」は近世怪異小説の方法として提示された。それは近世の儒教的論理観に即した時、怪異の話を虚構として活用する必要があったからである。実際に飯倉氏に提示された寓言の基本的な枠組みで『剪灯新話』を見れば、仮想的空間、語り手、聞き手、寓意の内容などの工夫が全編に亘って見られ、これから一編ずつ具体的な検証作業を進めていく必要がある。

(4) 本研究「アジアにおける怪異小説の伝統と創造—怪異小説としての『剪灯新話』—」は、「寓言論」という近世怪異小説の新理論の成果を踏まえて、その理論的概念を導入することによって、『剪灯新話』における怪異の取り組み方を明確に議論することが可能であると考えている。さらに本研究は『剪灯新話』の中国文学史上の位置づけを試みるもので、これまでの研究を発展させるものでもある。

3. 研究の方法

『剪灯新話』研究を深めるには基礎研究文献集が必要で、日本と中国双方から文献を収集し、日中双方の『剪灯新話』研究に関する基礎研究文献集を日本語版と中国語版で同時に作成する計画である。日本文学研究の国際化、知的財産の共有に役に立つもので、且つ最も基本的な作業である。

(1) 具体的にまず日本の研究を中国に紹介する。たとえば、1927年に山口剛氏の『怪談名作集』の解説では日本近世怪異小説における『剪灯新話』翻案の系譜を論述された。その後、1953年に後藤丹治氏の「雨月物語の成立と剪灯新話」などの典拠論、秋吉久紀夫氏の一連の書誌学研究（「原『剪灯新話』の刊期」、「『重校剪灯新話』の成立」1981年、「瞿佑と桂衡—「剪灯新話詩並序」をめぐる—」1982年）によって『剪灯新話』の成立、刊行の時期が明らかになった。このような『剪灯新話』研究の基礎文献は国内だけに留まり、海外で特に中国ではほとんど知られていない。

(2) 『剪灯新話』に関する基礎研究文献集の日本語版を作成する際、中国側の文献目録だけではなく、主要論文の要約もつけておく。同じく中国語版では日本側の文献をも要約する。

(3) 『剪灯新話』基礎研究文献集の作成するに当たって、中国『明代剪灯系列小説研究』の著者中国東南大学中国文学准教授喬光輝との連携により実施する。

4. 研究成果

中国で日本の剪灯新話に関する研究成果の紹介、中国人研究者との意見交換、資料収集を行った。

(1) 2010年12月の末に中国南京にある東南大学人文学院で中国文学、日本文学を専攻

とする院生、学部生向けに日本江戸文学の怪異小説に関する研究成果を紹介する講演『日本における剪灯新話の受容と研究』を行った。

(2) 2011年10月に杭州工商大学で「東アジアの漢文学の回顧と展望」の国際シンポジウムで「剪灯新話の対偶構成について」を題とした研究発表をして、中国、台湾、アメリカ、日本の研究者と「剪灯新話」の研究状況について意見交換を行った。

(3) 2012年3月に中国西北大学国際文化交流センターで中国各大学から出された論文資料を収集し、特に近年発表された「剪灯新話」に関する論文リストを作った。

(4) 2012年3月に台湾中央研究院を訪問し、「剪灯新話」に関する資料を収集した。また、台湾の「剪灯新話」研究の第一人者成功大学（台南市）の陳益源教授を訪問し、学術交流を行った。「剪灯新話」のベトナムに於ける受容と発展について多くの新発見を発表して来た陳教授の新資料、著作を収集して来た。

(5) 2012年9月1日に中国西安市、西北大学国際文化交流学院で開催された国際シンポジウム「日本と中国、中国と日本—文学からの接近」で、「怪異小説としての『剪灯新話』」の研究発表をした。

(6) 2012年12月22日に早稲田大学で開催された中国古典小説研究会関東例会で中国東南大学文学部教授喬光輝による研究発表「由黄正位刊本看《剪灯新話》瞿佑晚年的重校」の司会を務め、日本にける剪灯新話の研究状況について、参加者との討論を行った。

(7) 本研究課題を今後も遂行するには中国人だけではなく、韓国人、台湾人の研究者との連携が重要である。また剪灯新話の研究を広げるには、近年の研究成果を入れて中国語で新しい注釈本が必要である。中国人の研究者喬光輝教授と共同作業を進めて行こうと企画をしている。

(8) 本研究の資料集と論文集は遅れているが、現在作成中である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計2件)

① 閻 小妹 「再論剪灯新話の対偶構成-「鑑湖夜泛記」と「緑衣人伝」-」

『近世部会報』第6号、16-19、(日本文学協会近世部会) 2012、査読無

② 閻 小妹 「剪灯新話にある姉妹婚の話について」『近世部会報』第4号、1-4、(日本文学協会近世部会) 2010、査読無

6. 研究組織

(1) 研究代表者

閻 小妹 (YAN XIAOMEI)

信州大学・全学教育機構・教授

研究者番号：70213585